

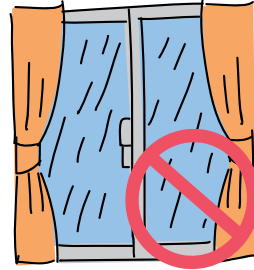
避難のポイント②

屋内安全確保の場合

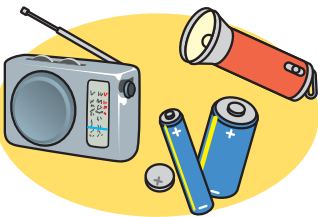


自宅の安全な場所へ避難
(がけから離れた2階以上など)

- 屋内に留まる方が安全な次のような場合は、屋内での避難(屋内安全確保)を行きましょう。
- 立退き避難に危険が伴う
- 付近に崖地がない
- 想定される浸水深より自宅が高い位置にある
- マンションの上層階等で災害が及ぶ可能性が低い



- 家の中心部に近い、窓のない部屋や、がけなどの危険な場所から最も離れた部屋へ移動
- 窓、雨戸、カーテンを閉める



- 停電に備えて、懐中電灯や携帯バッテリー、電池式ラジオ等を用意しておきましょう。

《自分でできる浸水対策》

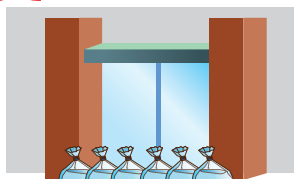
自宅が周囲の土地より低いなどにより、浸水のおそれがある場合は、あらかじめ土のうや水のうをご自身で準備しておきましょう。

また、これらが用意できない場合は、次の方法により浸水を防止することもできます。

家庭にあるものを利用して浸水防止

●簡易水のうを利用して

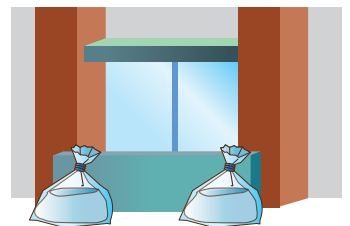
大きめのビニール袋を2重にして中に半分程度水を入れ、袋の口をしぼると簡易水のうができます。



ダンボール等に入れると持ち運びに便利で設置も簡単です。

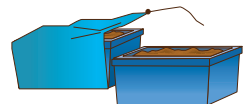
●止水板を使用して

簡易水のうを長めの板等と組み合わせて浸水を防ぎましょう。



●プランターやポリタンクを利用

プランターやポリタンクを並べてレジャーシートで包み、浸水を防ぎます。



豪雨時には、トイレ、お風呂場、洗濯機の排水溝から水が跳ね上がることがあります。

排水溝に簡易水のうを置くと、跳ね上がりを抑制できます。

